



編集・発行

大阪はびきの医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
TEL: 072-957-2121 FAX: 072-958-3291
E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

ホームページ



令和2年4月

第250号

就任のご挨拶

院長 山口 誓司

2020年4月1日付けで当センターの院長として赴任して参りました山口誓司でございます。私は同じ府立病院機構に所属する大阪急性期・総合医療センター（昔の大阪府立病院）で2015年から診療局長、2019年から副院長を務めておりました。経営のことはもとより、手術部の運営、さらに医師の働き方改革等に関わってきました。

近年、医師の業務は多様化し、かつ複雑化しています。その中で厚生労働省は医療機能の分化を図ろうとしています。従来、医師の仕事として診療は外来患者さんを朝から夕方まで診察してそれから入院患者さんを診るのが一般的でした。現在、入院患者さんの中でも高齢者の占める割合が多く、複数の病気を持っている患者さんが増えています。さらに、複雑化し病態が変化しやすい病棟の患者さんを夕方から診察して検査、治療の変更となり、主治医の時間外労働は増えるばかりでした。そこで、医師の劣悪な労働環境改善のため、医師の働き方改革が大きく取り上げられるようになりました。すなわち、大きな病院の専門診療科では可能な限り、入院診療に重点を置く体制となり、外来で診れる患者さんはできるだけ地域の先生方をお願いすることになります。

このように医療機能の分化を図ることにより、各診療科の先生は通常の診療時間内に入院患者さんへより力を注ぐことになります。時間外労働が減ることにより翌日の外来、入院診療に万全の体制で臨むことが可能となります。当センターでも今後このような医療機能分化を推し進めて、より高度な医療に力を注ぐように当センターの医療体制の変更を行っていく予定です。地域の医療水準の向上に寄与し、府域の人々の健康増進により貢献していく予定です。何卒よろしくお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の基本知識 ～ウイルスの名称、症状、マスク着用について～

医務局長 河原邦光

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が現在猛威をふるっています。新型コロナウイルスは、名前が示す通りコロナウイルスの新しいタイプです。一般的に、人に病原性のあるウイルスは22種類あり、コロナウイルスはそのうちの1つです。今回のCOVID-19、2002年に問題となったSARS、2012年のMERSの3疾患の原因ウイルスもこのコロナウイルスの中に含まれています。コロナウイルスは、電子顕微鏡などで観察すると、多角形の形をしており、その表面にスパイクと呼ばれる棘のような構造があります。その姿が太陽のコロナに一見似ていることから、コロナウイルスと呼ばれました。今回のウイルスもこのような姿です。

今回のウイルス以外の通常のコロナウイルスは、風邪の原因の約15%を占めるとされ、多くは数日の潜伏期の後に、鼻炎、咽頭炎の上気道症状を起こし、発熱はないことが多く、主に冬季にみられます。しかし、COVID-19は、このような通常のコロナウイルス感染症とは異なり、その感染性の高さとともに肺炎を合併する頻度の高さが明らかになっ

〈裏面へ続く〉



〈 表面からの続き 〉

ており、病名に“新型”という形容詞がついた訳です。COVID-19の致死率は、SARSやMARSより低いものの、インフルエンザよりは高く、高齢者や基礎疾患のある人に肺炎を合併した場合には、生命を脅かす重篤な状態になる可能性があることは皆さんも報道などですでに見聞きされていることと思います。

一般に今回の新型コロナウイルスを含めたウイルスは感染性病原体の中では最もサイズが小さく、0.02~0.1 μm とかなり微小です。病院で一般的に使用されているマスクは、サージカルマスクと呼ばれますが、これは直径5 μm 以上の大きい粒子を除去することができます。ということは、ウイルスは、0.02~0.1 μm のため、このままでは病原体がサージカルマスクを通過してしまいます。しかし、実際には、ウイルスは、咳やくしゃみなどの病原体の周りを水分で包まれた直径約5 μm の飛沫の形になっているため、サージカルマスクによって予防することが可能になります。ただし、気を付けなければならないのは、これらの飛沫の付着したマスクの表面を触った手で、目や鼻や口に触れることで感染することです。ずれたマスクを顔の元の位置に戻す際に、無意識に鼻などに触られる方は必ずおられると思いますが注意が必要です。このようなマスクの限界を知っておくことも今後必要と思われるます。



エコー検査の「エコー」って？

臨床検査科 副技師長 山田 立身



皆さんは病院でエコー検査を受けられたことはあるでしょうか？エコー検査の「エコー」とは「音の反響」や「やまびこ、こだま」を意味する英単語ですが、その由来はギリシャ神話に登場する妖精の名前からきています。

そのギリシャ神話とは、むかしむかし、ギリシャの森にエコーというおしゃべりな妖精がいました。ある日のこと、夫のゼウスが森の妖精達と楽しく遊んでいると聞いた妻のヘーラーは、怒って森の中へ入っていきました。

エコーはゼウス達を助けようとヘーラーのところへ行き、あれこれとうるさく話しかけ、その際にゼウスと妖精達をうまく逃がしてやったのです。そのことを知ったヘーラーは激怒し、罰としてエコーを自分からは話しかけることができず、ただ、誰かが話した言葉の語尾をくり返すことしかできなくなりました。

それから数年後、ナルキッソスという美少年が森へやってきました。エコーはその美しさに一目惚れをしてしまいます。しかし、エコーは自分からは話しかけることができず、ナルキッソスの後をついてまわりました。あるとき、ナルキッソスは森で道に迷い、友だちとはぐれてしまいました。ナルキッソスは大声で友だちを呼びました。「おーい、どこだ？」するとエコーが答えます。「おーい、どこだ？」それを聞いたナルキッソスが答えました。「ぼくはここだよ」するとエコーが「ぼくはここだよ」とナルキッソスの前へ飛び出しました。

ナルキッソスは驚き

「誰だ、おまえは？」 「誰だ、おまえは？」
「なぜ、真似をする？」 「なぜ、真似をする？」
「真似をするな」 「真似をするな」

腹を立てたナルキッソスは真似をするエコーを睨みつけどこかへ行ってしまいました。

ナルキッソスに嫌われたエコーは身も心もやつれ、ついには肉体をなくし声だけの存在になってしまいました。そして、それからは山や森の中で呼ぶものには、こだまのように誰にでも返事をするようになりました。

ということで、エコー検査に話は戻りますが、エコー検査はこのやまびこやこだまの原理を応用して開発されました。エコー検査には人間の耳には聞こえない音、超音波を使います。発信器から出た超音波は人の体の中を通り抜けたり反射したりしながら進んでいきます。そして反射して戻ってきた超音波はコンピュータ処理により画像に変換され、心臓、肝臓、腎臓など様々な臓器をリアルタイムに観察することができます。 また、エコー検査は放射線を使わないので被曝する心配がなく、痛みもありませんので、安心して検査を受けていただけます。

